

日向市駅前広場

(宮崎県日向市)

日向市駅前広場（宮崎県日向市）

駅前整備により、歩行者・自転車交通が 1.5 倍に増加

道路特性：拠点施設

事業特性：道路修景、木材利用



◆事業の内容

- 連続立体交差事業、土地区画整理事業、商業集積事業の一体的推進による駅周辺再整備
- 交通広場に隣接して市民が自由に憩えるオープンスペース「交流広場」を整備

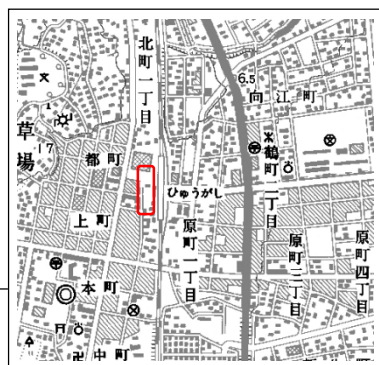
◆事業の成功要因（実践のポイント）

- 市民が「主役」となる検討体制の構築
 - ・検討段階から市民を巻き込むことで、ユーザー満足度の高い公共施設整備を行った。
- トータルコーディネートされたデザインの実践
 - ・優れた専門家の参加と、景観デザインに関する検討機関の設置によるコラボレーション体制の構築により、デザインのトータルコーディネートを実践。

◆事業の成果

- 事業の実施により歩行者・自転車交通量が、整備前に比べ約 45% 増加
- 市民企画のイベント数が約 1.8 倍、集客数も約 7.3 倍となった
- 県北の商店街地価の最高値は、近年、日向市が延岡市を逆転している

◆事業箇所



◆事業データ

- ・事業主体：日向市
- ・路線名称：－
- ・整備面積：東口 5,297.23 m²
西口 4,030.03 m²
- ・道路幅員：－（1車線）
- ・事業期間：平成 18 年～平成 21 年

日向市駅前広場（宮崎県日向市）

◆事業概要

- ・日向市は宮崎県北部に位置する都市である。日向市駅を中心とする中心市街地は、「人・物・情報等の集発散の場」として、昔から親しまれたまちである。
- ・中心市街地の衰退が進んでおり、市街地の整備改善策として、県による連続立体交差事業と同時に、日向市駅周辺土地区画整理事業、商業集積事業を実施し、3事業を一体的に進めることで駅周辺の再整備に取り組んだ。
- ・日向市駅周辺の再整備には、JR九州、建設コンサルタント、建築家、構造家、土木設計家、デザイナー、都市計画家、有識者などの多くの優れた専門家が関わり、これらの専門家の能力の相乗効果によって、クオリティの高い景観整備が実現した。



◆整備概要

- 交通広場の整備
- 交流広場の整備（芝生広場、噴水等）
- 歩道の美装化
- 道路附属物（照明、車止め等）の修景
- 地場産材を活用した施設整備



案内サイン

実践上のポイント（構想・計画段階）

～市民が「主役」となる検討体制の構築～

- ・ 中心市街地整備については当初から「産・学・民・官」協働のまちづくりを目指しており、現在までに 28 程の委員会等が設置されてまちづくりについての検討を行った。
- ・ 地域の関与は完成した駅舎や駅前広場、交流広場等を、市民が「主役」となって活用してもらうためという意味であり、市民の意見はできる限り設計に反映されるように配慮している。
- ・ 都市デザイン会議を除く全ての委員会等に市民、地域住民が参加し、それぞれの立場から計画検討の段階から使い方等を含めて検討を行っている。
- ・ 行政を中心に学識者、都市計画家、建築家、都市デザイナー、プロダクツデザイナー、JR 九州や地域産業及び一般市民や子供たちが参加して、大きな輪となった。

【事業供用までの主な検討経緯】

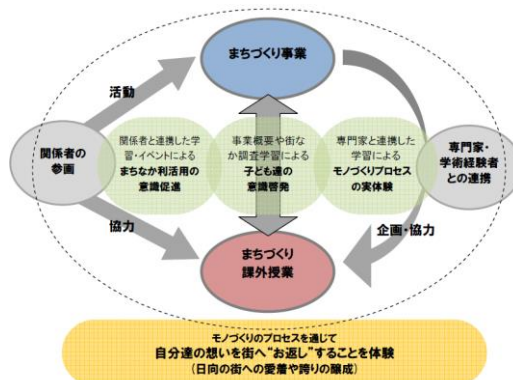
- ・ H10. 10 日向地区連続立体交差事業補助事業採択鉄道駅高架駅舎デザイン研究会開催
- ・ H11. 01 中心市街地活性化基本計画策定
- ・ H13. 03 日向地区連続立体交差事業基本協定締結
- ・ H14. 05 都市デザイン会議①
- ・ H14. 10 都市デザイン会議②
- ・ H16. 02 西口駅前広場仮整備
- ・ H16. 03 市駅広委員会・WG①
- ・ H16. 07 市駅広委員会③
- ・ H17. 10 西口・広場基本設計
- ・ H18. 02 市駅広委員会：最終⑤
- ・ H18. 10 新日向駅開業式
- ・ H21. 03 交流広場工事完了

～実物確認やイベントを介した市民感覚の反映～

- ・ 図面だけの判断ではなく、案内サインや歩車道境界の縁石等について、市民が実際に見たり使ったりして計画案を判断できるよう、実物模型を確認する等のプロセスを多用し、合意形成を円滑化。
- ・ 提案した検討案については、委員会、市民、障害者団体、イベント主催者などの幅広い意見を聞き、検証を行い、必要に応じて検討案の変更を実施。例えば、歩車道境界のマウンドアップ構造について、視覚障害者と車いす利用者の狭間で食い違う意見の調整を実施。
- ・ 木材を使用した照明柱については、地元有志の協力のもと、材質や防腐処理などの実験を実施。
- ・ 平成 14 年から継続的に地元の子供たちが参加するイベントや学校での課外授業の取り組みを行い、公共事業への関心を高める取り組みを実施。この活動成果は 2005 年グッドデザイン賞「新領域部門」、平成 23 年度都市景観大賞「景観教育・普及啓発部門」国土交通大臣賞を受賞。



利用者の意見を現地で調整



課外事業によるネットワークの拡大

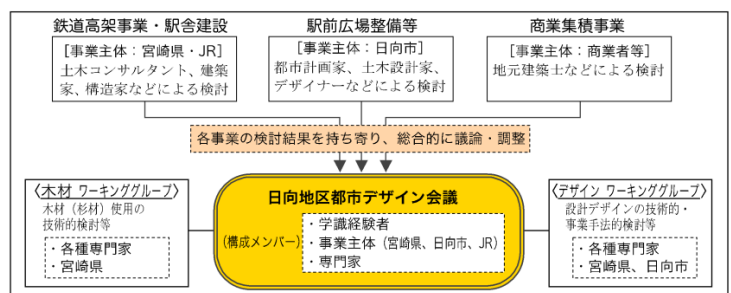
実践上のポイント（設計段階）

～トータルコーディネートされたデザインの実践～

- ・鉄道高架橋のデザインから駅舎デザイン、駅前広場や沿道空間までも含めたトータルコーディネートされたデザインを実践した。
- ・設計段階においてもワーキング、委員会は継続し、施設の位置づけ、デザイン、利用方法に至るまで全てを会議の議題として議論。
- ・維持管理についても設計段階から検討を行い、実験を重ねながらデザインを決定する作業を実施した。
- ・都市デザイン会議は、まちづくり全体のコーディネーターとしての役割を担い、当該会議が事業着手時から完了まで関与することで、議論がぶれずに一貫性を保つことができた。
- ・検討に先駆け、専門家は日向市内のフィールドサーベイを徹底的に行ったうえでデザイン検討を実施。

◆日向市駅周辺都市デザイン会議委員（H24.3 現在）

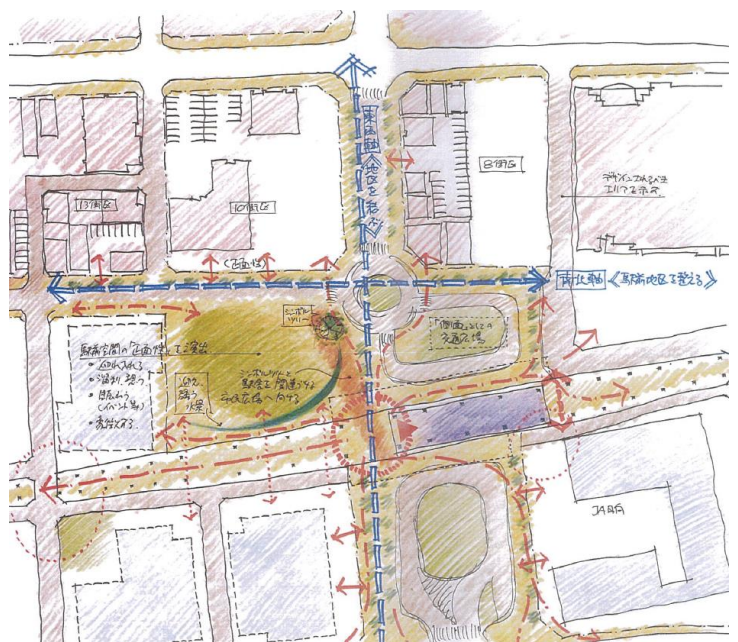
篠原修（東京大学名誉教授・土木設計家）
 内藤廣（東京大学名誉教授・建築家）
 武田光史（日本工業大学大学院教授・建築家）
 出口近士（宮崎大学准教授）
 吉武哲信（宮崎大学准教授）
 山口ひろこ（色彩専門家）
 九州旅客鉄道株式会社・宮崎県・日向市



検討体制図

■駅前広場のコンセプト

- ・連続立体交差事業による高架化によって、分断されていた東西の地区がひとつつながりになる。
- ・それぞれ海の文化圏と、山の文化圏が繋がる東西軸と、これに直交する「交流通り」という南北軸を形成する。
- ・この直行する2つの軸を活用する事で、にぎわいある日向市駅前地区の「顔」の創出を図る。



駅前広場コンセプト図

実践上のポイント（施工段階）

～市民参加によるデザインの一貫性の確保～

- ・ 設計意図の一貫性を確保するため、施工にあたっては、市民参加の下、煉瓦や自然石等のサンプルや案内サインの実物模型の現地確認を実施。
- ・ その上で、さらに通行の安全性や快適性、美観等をチェックし施工。



舗装の試験張りによる確認状況



案内サインの実物模型による確認状況

実践上のポイント（管理段階）

～地域の愛着にもとづいた自主的な維持管理～

- ・ 計画の初期段階からの市民参加が、自分たちの広場であるという愛着を醸成し、地元の各種団体による広場の自主的な清掃活動等、地域貢献の輪が広がりを見せている。
- ・ 駅前ロータリーの草花の地元と市の協働による植え替え作業を実施するなど、維持管理費用の低減に効果的な取り組みを実施。
- ・ 地元木材を利用した施設（道路照明、ボラード等）について、供用後 10 年を目途に木材の耐久状況等を確認。
- ・ ボラード、照明柱の木材部分を取り外し、表面のかんな削りを実施。

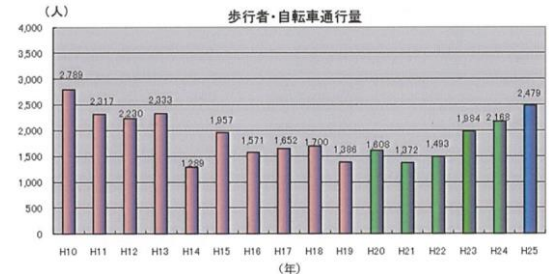


地元ボランティアによる清掃風景

整備効果

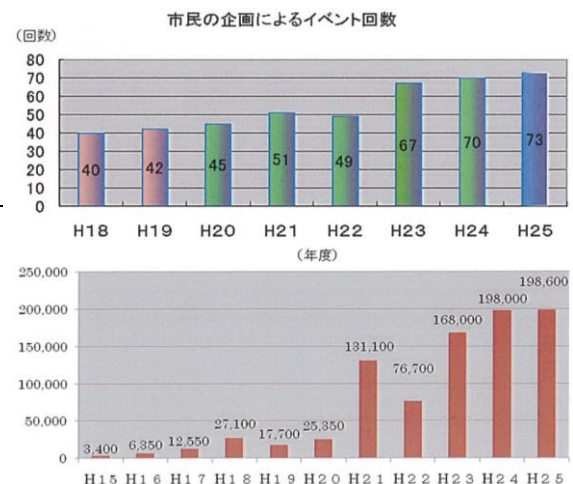
～歩行者・自転車交通量が1.5倍に増加～

- ・事業供用後の歩行者・自転車交通量（休日）が、整備前に比べ凡そ1.5倍（1,700人から2,479人）に増加（※基準年値（H18）→測定値（H25））。
- ・人が集い、人がふれあう、活気に満ちた生活文化交流空間として機能している事が伺える。



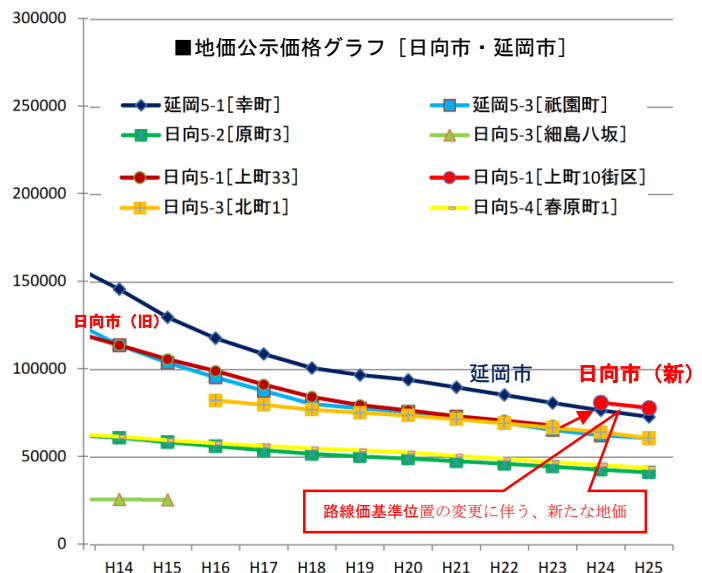
～市民企画のイベント数が1.8倍、集客数が7.3倍に増加～

- ・事業供用後の市民の企画によるイベント数が、整備前に比べ凡そ1.8倍（40回から73回）に増加（※基準年値（H18）→測定値（H25））。
- ・更に市民の企画によるイベント集客数が、整備前に比べ凡そ7.3倍（27,100人から198,600人）に増加（※基準年値（H18）→測定値（H25））。
- ・市民協働による持続的なまちづくり活動が活発化している事が伺える。



～整備後、宮崎県北部の商店街地価が1位に～

- ・宮崎県北部の商店街地価は延岡市幸町が最も高かったが、延岡の地価下降と路線価基準位置の変更を受け、整備後、宮崎県北部の商店街地価の最高値は日向市が逆転することとなった。



日向市駅前広場（宮崎県日向市）

～交流広場の整備により市民の地域活動が活性化～

- ・整備後、交流広場では市民が企画するイベントが多数開催され、市民の広場に対する認知度の向上につながっている。
- ・市民協働による施設の維持管理など、自分たちの施設という愛着が醸成されている。
- ・日常的に親子連れの遊ぶ姿が見受けられるようになり、子供向けイベントには母親が同伴することもあり、駅前商店街を広くPRする機会につながっている。



日向ひよっこ夏祭り



まちなかハロウィン



日向の灯り「キャンドルナイト」



ハンギングバスケット展



わんぱく相撲



七夕祭り



その他イベントの数々

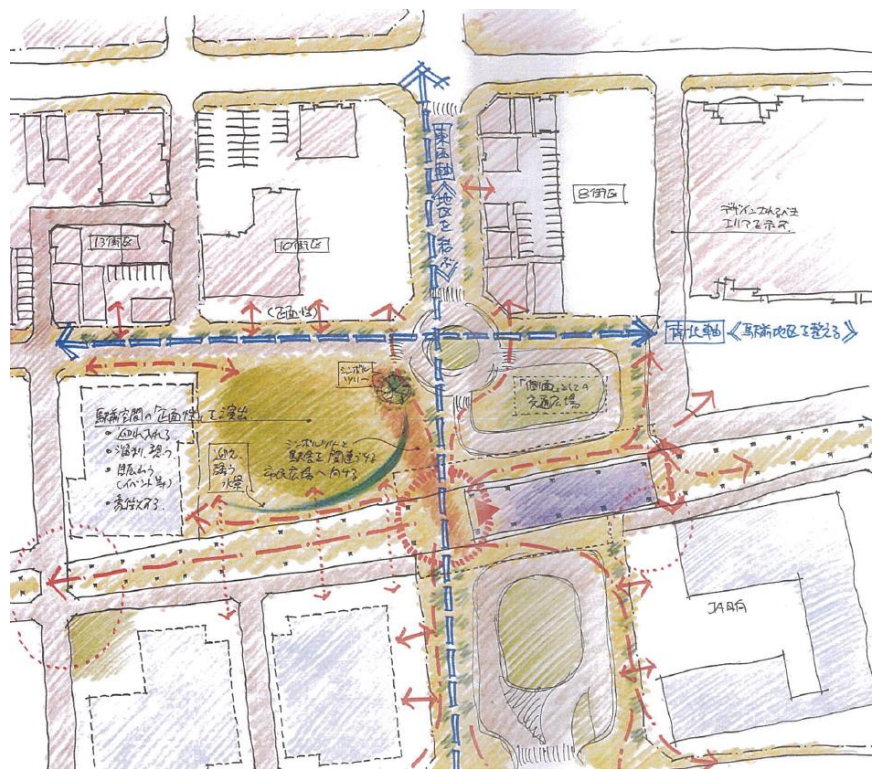
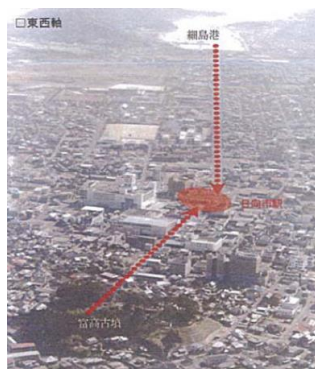
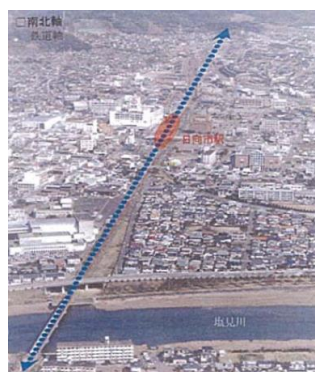
具体の整備内容

【デザインコンセプト】

全体コンセプト

“クロスする軸線が地域をつなぐ”

- ・連続立体交差事業による高架化によって、分断されていた東西の地区がひとつながりになる。それぞれ海の文化圏と、山の文化圏が繋がる東西軸と、西口はこれに直交する「交流通り」という南北軸を有する。この直行する 2 つの軸を活用する事で、にぎわいある日向市駅前地区の「顔」を創出した。



デザインコンセプト図と最終プラン

日向市駅前広場（宮崎県日向市）

【交流広場】

- ・日向市駅前広場の最大の特徴である「交流広場」は、交通広場に隣接して整備された。このオープンスペースによって、駅舎を中心とする駅前空間は人間のための場所という印象を与えている。

■芝生広場

- ・日常のおだやかな風景も、様々なイベントもすべてこなし得る受容力を有する場としてデザイン。造形のイメージは「西都原古墳群」をモチーフとしている。
- ・広場の整備を機に、日向市最大のイベントである「日向ひょっとこ夏祭」の会場を、市役所前広場から交流広場に変更。



芝生広場

■イベントステージ

- ・交流広場に面し、地元杉の集成材を活用したイベントステージを設置。
- ・ステージの仕様・形状については、年間を通じての使いやすさを追求し、小規模イベント等のための簡易なPA設備を常備。



交流広場で開催されるひょっとこ祭り

■噴水とせせらぎ

- ・井戸水の掛け流しにより濾過機と循環ポンプを省略することで、ローコストな噴水とせせらぎスペースを実現。
- ・手押しポンプの設置は市民のアイデア。

■芝生広場中央の曲線通路

- ・車椅子利用者も芝生広場を楽しみながら通行できる曲線園路は、市民との徹底的な話し合いを行った上で、施工段階の最後に追加。



イベントステージ



噴水とせせらぎ



曲線通路

日向市駅前広場（宮崎県日向市）

【歩道舗装】

- 歩道部の舗装材料は、「大地の質感をそのままに焼き上げたような」温かみのある風合いと重厚な質感を併せ持つ煉瓦を使用。
- 縁石部や車道舗装のディテールに御影石を組み合わせ、コストパフォーマンスへ配慮する一方、親しみやすさと品格を両立させた。
- 広場で用いられている石材、樹木は、土地区画整理事業で移転した個人から無償提供された。



地元から無償提供された大判の自然石



歩道舗装

【道路照明】

- 駅舎や駅前広場のコンセプトの根幹に「木を使ったまちづくり」がある。
- このコンセプトの下、地元団体による樹種選定、防水や防腐処理等の実験を実施し、道路付属物に木材を活用している。



灯具詳細



地元の活動



2灯型照明柱（バナーポール付）



1灯型照明柱

日向市駅前広場（宮崎県日向市）

【ボラード・ベンチ】

- ・ベンチやボラードといったストリートファニチャーにも木材を活用している。
- ・経年変化による汚れや傷みは、「かな」で削る事で維持管理している。
- ・メンテナンスフリーに頼らない、愛着のある維持管理の実践。



ボラード



ベンチ

【案内サイン】

- ・案内サインは日向灘の青色をモチーフとした「日向ブルー」で統一。
- ・この色彩の採用にあたっては、何種類ものカラーイメージをワーキングで議論し、決定。



総合案内サイン



施設案内サイン



方向案内サイン

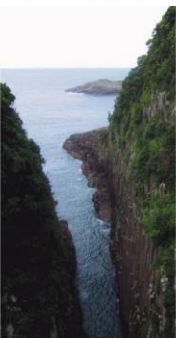
ワークショップの意見から

- スカイブルー（空、あまり使われなく新鮮）
- グリーン系（新芽の緑、モスグリーン）
- 明るいオレンジ（ひまわり）

ブルー系は視認性も良くワークショップでの評判も良かった。

【日向の青】

日向ならではの色、たとえば細島から見る海の色、また馬が背から見る海の色

美しい細島 馬が背から見る海

【日向の青の検討】

● 一般的なスカイブルーから、よりサインに適するカラーを検討。
明度、彩度を落とし、わかりやすく、また退色しにくい色とする。
→ 馬が背の深いブルーをイメージ

← 日向の青

明度、彩度を調整

● スカイブルー ● グリーン系 ● 明るいオレンジ

明度、彩度を調整	スカイブルー	グリーン系	明るいオレンジ
日向市駅	↑ 日向市駅	↑ 日向市駅	↑ 日向市駅
10 地区 13 地区	10 地区 13 地区	10 地区 13 地区	10 地区 13 地区
8 地区	8 地区	8 地区	8 地区
21 世紀プラザ	21 世紀プラザ	21 世紀プラザ	21 世紀プラザ
イベント広場	イベント広場	イベント広場	イベント広場

デザイン検討シート

事業を通じた新たな取り組み

- ・今回の事業を通じ、市として「如何に利用者である市民の意見を聞く場」を提供するか、という意識が生まれ、市の公共事業を実施する姿勢に変化をもたらした。
- ・本事業の経験を踏まえ、事業の一貫性を確保するため、他事業において基本設計から実施設計までを一括に行うプロポーザルも実施している。

事業関係者のコメント

【行政担当者】

＜構想・計画段階＞

- ・計画の初期段階から、「連続立体化、区画整理、商業集積、交流拠点施設整備の4つの事業があつてこそ、日向市の中心市街地は活性化する」と考え、ハード事業によるソフト事業の牽引というコンセプトを提示した。

＜設計段階＞

- ・専門家による駅前広場の空間コンセプト図は斬新であつた。
- ・この事業では、専門家と地元の交流を通じ、良好な人間関係が育まれたと思う。例えは悪いかもしれないが、地元の方と気軽に飲食が出来るような人間関係を築いている。
- ・専門家の市内資源の綿密な調査や、遠方からの祭りへの参加といった熱意が、より良い合意形成を導く一因だったように思う。

＜管理段階＞

- ・計画段階から市民が参加しているため、自分たちの広場であるという思いがあり、強い愛着が醸成されたようである。
- ・イベント時の賑わいも担当者として嬉しいが、日常的な憩いの場になっていることが最も嬉しく感じている。

【学識・有識者】

＜設計段階＞

- ・市民や近所の住民の関心で、一番彼らにとって重要なのは、実際に身近に使う「小物」であり、「ベンチが座りやすい」とか、「親しみがわく」、「サインが分かりやすい」ということが非常に重要。日向市のサインは試作品を原寸大で作り、それを用いて住民と議論して決めている。

＜管理段階＞

- ・木材などの自然素材を使用すると、維持管理が大変であるが、日向市からは「とにかく、10年やってみよう」、「供用が10年経過したらメンテナンスが必要かどうかチェックする」と言ってもらい実施につなげている。
- ・3～4年前のチェック時に、表面にカンナをかけたところ、10年前とまったく同じ状態が確認できている。